

**(品目別需給編)**

# 1 小麦

## (1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

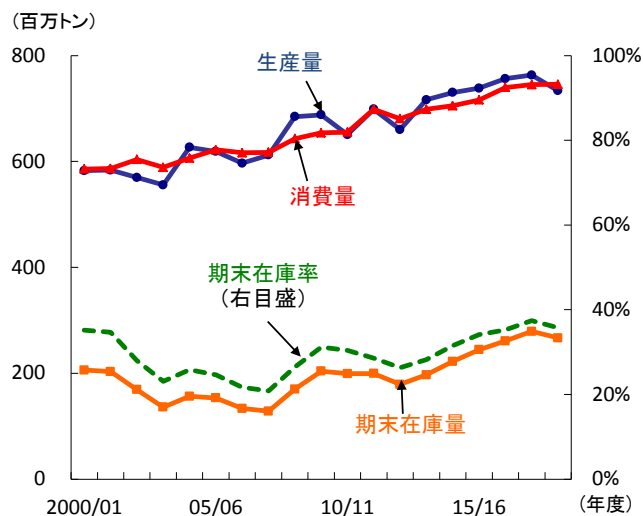
2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑  
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・前月に比べ、豪州での生産減による輸出余力の低下等から下方修正された。
- ・前年に比べ、米国等で増加もロシア等で減少し、前年度を下回る見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑

※中国国家统计局のデータ見直し等により、生産量、消費量で上方修正。



注：USDA「PS&D」(2018.11.8)をもとに農林水産省で作成。

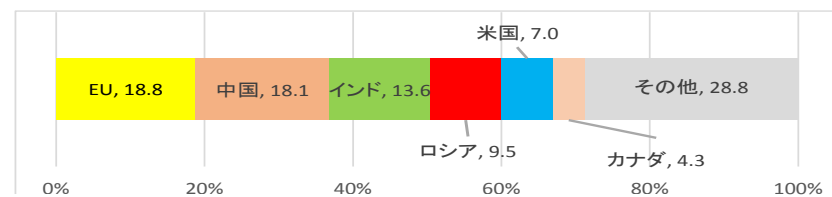
## ◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

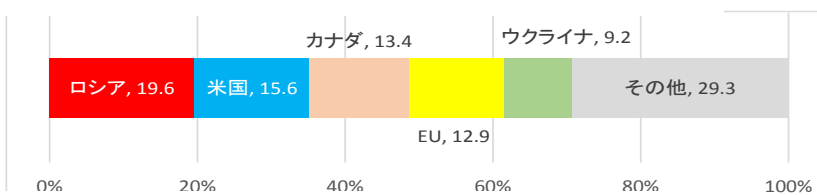
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	756.5	763.1	733.5	2.6	▲ 3.9
消費量	739.8	745.1	745.8	0.2	0.1
うち飼料用	147.6	148.7	141.0	0.7	▲ 5.2
輸出量	183.4	181.3	178.8	▲ 1.6	▲ 1.4
輸入量	179.0	179.4	175.8	▲ 2.0	▲ 2.0
期末在庫量	261.0	279.0	266.7	6.5	▲ 4.4
期末在庫率	35.3%	37.4%	35.8%	0.9	▲ 1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」 (8 November 2018)

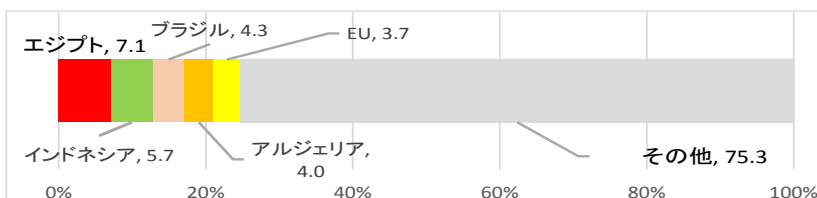
### ○ 2018/19 年度の世界の小麦の生産量 (733.5 百万トン) (単位: %)



### ○ 2018/19 年度の世界の小麦の輸出量 (178.8 百万トン)



### ○ 2018/19 年度の世界の小麦の輸入量 (175.8 百万トン)



(3) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によると2018/19年度の生産量は、冬小麦が32.2百万トン、春小麦19.1百万トンの51.3百万トンと前月からの改訂はなく、2017/18年度より8.3%増加する見込み。

2019/20年度の冬小麦は、11月18日時点で、降雨により作付けが遅れ、作付進捗率が93%、発芽率が81%とそれぞれ前年度の97%、87%を下回っている。主要産地のカンザス州ではハリケーンマイケルの影響で作付けが遅れた。

また、作柄は、良～やや良が56ポイントと前週の54ポイント、前年度の53ポイントを上回った。前週よりイリノイ州では良～やや良が14ポイント上昇した。

【需要動向】消費量は、2019/20年度の作付面積がUSDA農家サービス局の推定で2.1百万ヘクタール増となることから、種子用消費量が0.2百万トン上方修正された。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務省(AAFC)11月報告によると、生産量は31.0百万トンと前月からの改訂はなく、2017/18年度を3.4%上回る見込み。品種別には、デュラム小麦が5.7百万トン(対前年度15%増)、デュラムを除く小麦が25.3百万トン(対前年度1.1%増)。

各州政府報告によると、サスカチュワン州等の平原3州の収穫は11月上旬までにほぼ終了した。品質は、アルバータ州で8月下旬からの降雨過多により品質が悪化、サスカチュワン州では、平年並みから平年を上回る。

【貿易情報・その他】AAFC11月報告によると、輸出量は、デュラム小麦で前月より0.3百万トン下方修正され22.3百万トンの見込み。

米国農務省(USDA)によれば、カナダは主要なデュラム小麦の輸出国で、2017/18年度はアルジェリア、米国、モロッコ等へパスタ用等として4百万トン以上を輸出。

小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.3	-	8.3
消費量	31.9	29.3	31.3	0.2	6.6
うち飼料用	4.4	1.4	3.0	-	119.9
輸 出 量	28.6	24.5	27.9	-	13.8
輸 入 量	3.2	4.3	3.8	-	▲ 11.0
期末在庫量	32.1	29.9	25.8	▲ 0.2	▲ 13.6
期末在庫率	53.1%	55.5%	43.7%	▲ 0.5	▲ 11.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.19	16.03	-	5.5
単収(t/ha)	3.54	3.12	3.20	-	2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.5 (31.0)	-	5.1
消費量	10.8	9.2	9.0 (9.1)	-	▲ 1.7
うち飼料用	5.8	4.3	4.0 (4.7)	-	▲ 6.1
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.3)	-	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	6.2	5.1 (5.9)	-	▲ 17.0
期末在庫率	22.2%	19.9%	15.5% (18.8%)	-	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.80 (9.83)	-	9.1
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (3.16)	-	▲ 3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(15 November 2018)

< 豪州 >

【生育・生産状況】生産量は、米国農務省(USDA)によれば、東部で引き続き乾燥の影響で、一部の小麦が収穫前に干し草用に仕向けられたことから、収穫面積が前月に比べ0.2百万ヘクタール減少した。このため、生産量は、前月に比べ1.0百万トン下方修正され、17.5百万トンと2007/08年度(13.6百万トン)以来の低水準になる見込み。

なお、収穫は10月に開始され、12月の下旬に終了する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月に比べ1.5百万トン下方修正され、11.5百万トンとなる見込み。これは、前月より供給量が下方修正されたため、国内価格及び輸出価格が上昇し、輸出競争力が減少したことと、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州で、乾燥天候により小麦と牧草が生産減となったため、飼料用需要が高まり、本来ウエスタンオーストラリア州から輸出される小麦が両地域に供給されたためである。

< EU >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2018/19年度の実産量は収穫面積が低下したものの、単収の上昇から、前月より0.1百万トン上方修正され、137.6百万トンとなる見込み。国別には、フランス、デンマーク等で下方修正されたが、ドイツ、ルーマニア、ハンガリー等で上方修正された。

2019/20年度は、穀物理事会(IGC)によれば、作付面積が前年度より5%増加し、26.5百万ヘクタールになる見込み。ここ数ヶ月降雨に恵まれたものの、ドイツ、ポーランドでは土壌水分が不足している。

【貿易情報・その他】欧州委員会によれば、輸出量(2018年7月~11月)は、軟質小麦が5.9百万トン、デュラム小麦が0.2百万トンと、それぞれ前年度の7.8百万トン、0.3百万トンを下回っている。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.3	17.5 (16.6)	▲ 1.0	▲ 17.8
消費量	7.5	7.5	8.5 (8.3)	0.8	13.6
うち飼料用	4.0	4.0	5.0 (4.9)	0.8	25.0
輸 出 量	22.6	14.0	11.5 (10.0)	▲ 1.5	▲ 17.9
輸 入 量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	5.7	5.7	3.4 (4.0)	-	▲ 41.2
期末在庫率	19.0%	26.5%	16.8% (21.9%)	0.6	▲ 9.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	10.80 (11.02)	▲ 0.20	▲ 11.8
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.62 (1.51)	▲ 0.06	▲ 6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(25 October 2018)

小麦—EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.3	137.6 (136.2)	0.1	▲ 9.0
消費量	128.0	130.4	125.0 (128.5)	-	▲ 4.1
うち飼料用	56.0	58.0	53.0 (55.2)	-	▲ 8.6
輸 出 量	27.4	23.3	23.0 (21.2)	-	▲ 1.2
輸 入 量	5.3	5.8	6.5 (6.6)	0.5	11.7
期末在庫量	10.7	14.1	10.2 (13.7)	0.2	▲ 27.6
期末在庫率	6.9%	9.2%	6.9% (9.2%)	0.1	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.23	26.08	25.55 (25.44)	▲ 0.08	▲ 2.0
単収(t/ha)	5.34	5.80	5.39 (5.4)	0.03	▲ 7.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
USDA 「PS&D」(8 November 2018)  
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(25 November 2018)

< 中国 >

【生育・生産状況】中国国家统计局は2007/08年度から2017/18年度までの過去11年間の生産量、収穫面積、単収を見直した。その見直しを踏まえ、米国農務省(USDA)は、2018/19年度を生産量を収穫面積の増加と単収の上昇により、前月から4.5百万トン上方修正し、132.5百万トン(対前年度1.4%減)と見込んでいる。

2019/20年度は、冬小麦の生育が進んでおり、江蘇省北部等の黄淮地区南部、安徽省中部等の江淮地区では播種～出苗期に入っており、河北省等の華北地区等では出苗～第3新葉期、一部は分けつ期に入っている。また、西南地域では播種期を迎えている。

【貿易情報・その他】 国家発展改革委員会は、小麦買付けに関し、在庫積増しの回避や国内価格を考慮し、2019年度の小麦(三等)の最低買入価格を50kg当たり、2018年の115元を下回る112元とした。

< ロシア >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によると、2018/19年度の収穫量は前月からの改訂はなく、70.0百万トンの見込み。ロシア農業省の収穫速報によれば、11月26日時点で収穫面積が26.4百万ヘクタール、収穫量(品質調整前)は、73.4百万トン。

また、穀物理事会(IGC)によれば、2019/20年度の作付けが現在進行中で、南部では乾燥状態となっているが、他の地域では温暖な天候に恵まれている。

【貿易情報・その他】輸出量の前月からの改訂は行われていない。2018/19年度は、ロシアの小麦生産量が史上第3番目の豊作であること等から、輸出量はロシア史上第2番目となり、引き続き世界の第一位を占める見込み。

連邦税関庁によれば、11月22日時点(2018年7月～)の小麦輸出量はロシア史上第1位となった前年同日比23.7%増の19.8百万トンとなっている。なお、ロシア農業省によれば、2018/19年度の小麦輸出見通しは、34～35百万トンの見込み。

小麦－中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.3	134.3	132.5 (134.7)	4.5	▲ 1.4
消費量	119.0	121.0	123.0 (127.3)	1.0	1.7
うち飼料用	17.0	17.5	18.0 (19.0)	1.0	2.9
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.1)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	4.0 (4.3)	▲ 0.5	-
期末在庫量	114.9	131.3	143.6 (128.4)	7.4	9.4
期末在庫率	96.0%	107.6%	115.6% (100.0%)	5.1	8.0

(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.69	24.51	24.21 (24.88)	0.51	▲ 1.2
単収(t/ha)	5.40	5.48	5.47 (5.41)	0.07	▲ 0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(25 October 2018)

小麦－ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	70.0 (69.5)	-	▲ 17.6
消費量	40.0	44.0	40.5 (41.7)	-	▲ 8.0
うち飼料用	17.0	21.0	18.0 (18.0)	-	▲ 14.3
輸 出 量	27.8	41.4	35.0 (32.2)	-	▲ 15.5
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.4
期末在庫量	10.8	10.9	5.9 (10.9)	-	▲ 46.0
期末在庫率	16.0%	12.7%	7.8% (14.8%)	-	▲ 5.0

(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.00 (26.10)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.69 (2.66)	-	▲ 13.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(25 October 2018)

## 2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

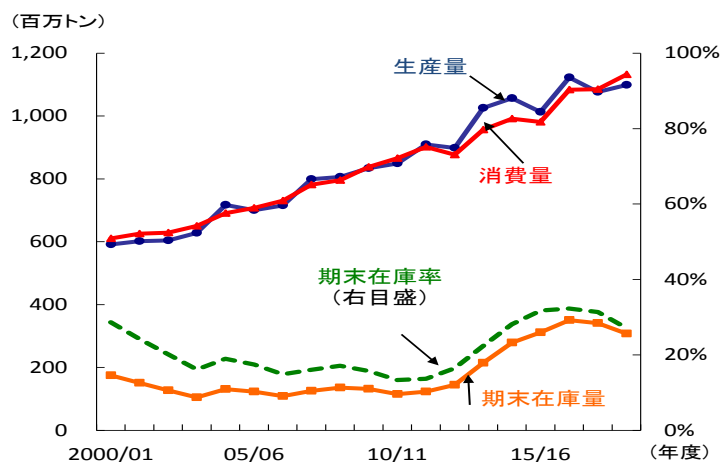
・前月に比べ、ウクライナの単収増加により上方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑

\*中国国家統計局のデータ見直し等により、生産量、消費量、期末在庫量が上方修正された。



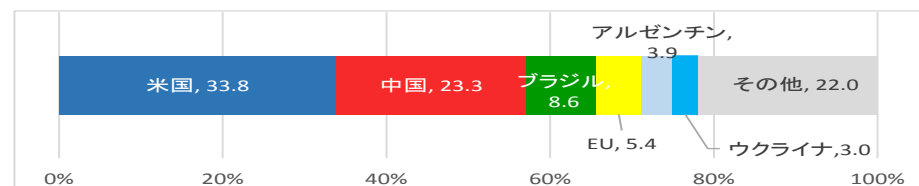
資料：USDA「PS&D」(2018.11.8)をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

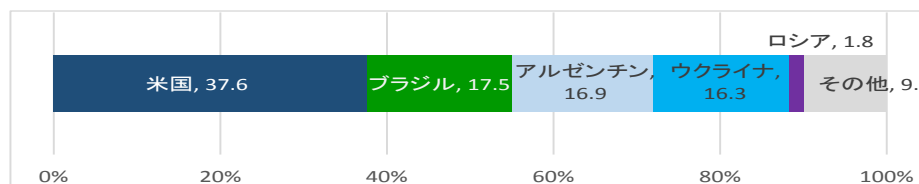
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,122.5	1,076.2	1,099.0	30.6	1.9
消費量	1,083.6	1,085.6	1,132.4	25.2	2.1
うち飼料用	656.0	669.9	696.7	19.8	2.6
輸出量	160.1	146.8	165.6	2.7	4.6
期末在庫量	350.3	340.9	307.5	148.2	▲ 18.3
期末在庫率	32.3%	31.4%	27.2%	12.8	▲ 4.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2018)

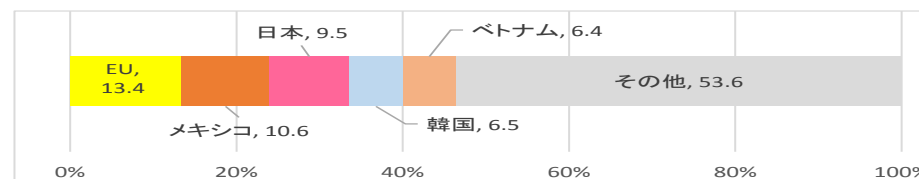
○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,099.0百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸出量(165.6百万トン)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸入量(157.16百万トン)



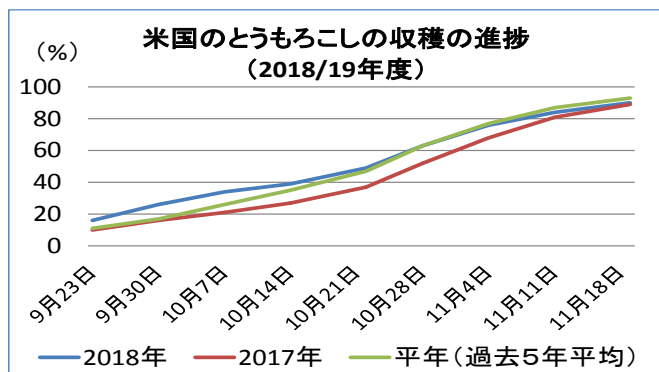
(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】生産量は、米国農務省（USDA）により単収予測が下方修正されたことから、前月予測を下回るものの、史上二番目の371.5百万トンの見込み。11月18日時点で、主要産地の収穫率は90%（過去5年平均は93%）であり、ほぼ収穫は終了した。

【需要状況】先月と比べ、牛、鶏の飼育頭数が減少したため、飼料用穀物の消費量が下方修正され、とうもろこしの飼料用需要も下方修正された。

【貿易情報・その他】生産量の下方修正から、輸出量は、前月と比べ、下方修正されたものの、前年度より上回り、史上最高の62.2百万トンの見込み。また、ウクライナの輸出量が伸びていることから、輸出市場で米国と競合している。



資料：USDA 「Crop progress」 2018. 11. 19

とうもろこし－米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	371.5	▲ 3.9	0.2
消費量	313.8	313.8	320.8	▲ 1.3	2.2
うち飼料用	138.9	134.6	139.7	▲ 1.3	3.8
エタノール用等	138.0	142.4	143.5	-	0.8
輸 出 量	58.3	61.9	62.2	▲ 0.6	0.5
輸 入 量	1.5	0.9	1.3	-	38.0
期末在庫量	58.3	54.4	44.1	▲ 2.0	▲ 18.9
期末在庫率	15.7%	14.5%	11.5%	▲ 0.5	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.09	-	▲ 1.1
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.23	▲ 0.11	1.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (8 November 2018)

とうもろこし－ウクライナ

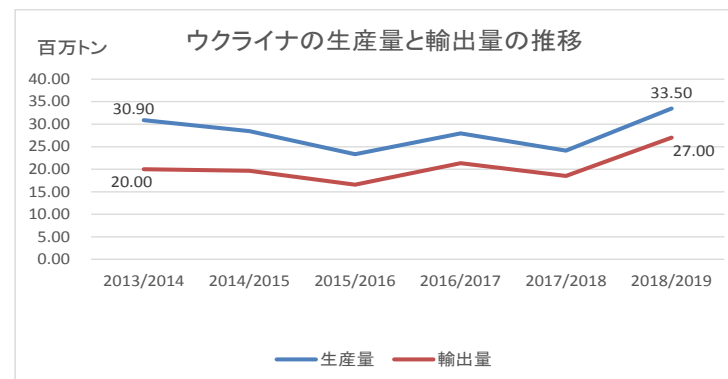
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	28.0	24.1	33.5 (33.5)	2.5	38.9
消費量	6.5	5.8	6.6 (6.6)	0.4	13.8
うち飼料用	5.1	4.5	5.3 (5.3)	0.4	17.8
輸 出 量	21.3	18.5	27.0 (27.0)	2.0	45.9
輸 入 量	0.0	0.1	0.0 (0.0)	-	▲ 40.0
期末在庫量	1.6	1.4	1.3 (1.3)	0.1	▲ 5.7
期末在庫率	5.6%	5.8%	4.0% (4.0%)	0.0%	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.24	4.43	4.60 (4.50)	-	3.8
単収(t/ha)	6.60	5.44	6.52 (7.44)	0.55	19.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (8 November 2018)  
IGC 「Grain Market Report」 (25 October 2018)

参考 ウクライナのとうもろこし

ウクライナ農業省によると、11月19日時点で、31.2百万トンが収穫済み。収穫は9割進捗。作付面積は4百万ヘクタール、単収は7.6トン/ヘクタール。USDAの11月予測によると、生産量は33.5百万トンで、2013/14年度の30.9百万トンを超え、史上最高の見込みである。



< ブラジル >

【生育・生産状況】 2018/19年度については、8月から夏とうもろこしの作付けが始まっている。主産地のパラナ州では、11月6日現在で9割以上作付けが終わっている。

ブラジル食料供給公社 (Conab) によると、2018/19年度とうもろこし (夏とうもろこし、冬とうもろこしの合計) の栽培面積は、16.7百万ヘクタール～16.8百万ヘクタール (前年度比0.2%増～1.1%増)、生産量は、90.0百万トン～90.1百万トン (前年度比11.4%増～12.6%増) の見込みである。うち、夏とうもろこしは、26.3百万トン～27.2百万トン (前年度比2.0%減～1.5%増) である。

【貿易情報・その他】 2018年1月からの貿易統計によると、ブラジルのとうもろこしの輸出先は、イラン、スペイン、ベトナム等であり、中でもイランが最も多い。

とうもろこし—ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	98.5	82.0	94.5 (95.1)	-	15.2
消費量	60.5	64.5	66.5 (66.3)	-	3.1
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (53.0)	-	1.8
輸 出 量	31.6	22.0	29.0 (30.0)	-	31.8
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.5)	-	-
期末在庫量	14.0	10.5	10.5 (7.4)	-	-
期末在庫率	15.2%	12.2%	11.0% (7.7%)	-	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.50 (17.57)	-	5.4
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.40 (5.41)	-	9.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (8 November 2018)  
IGC 「Grain Market Report」 (25 October 2018)



< 中国 >

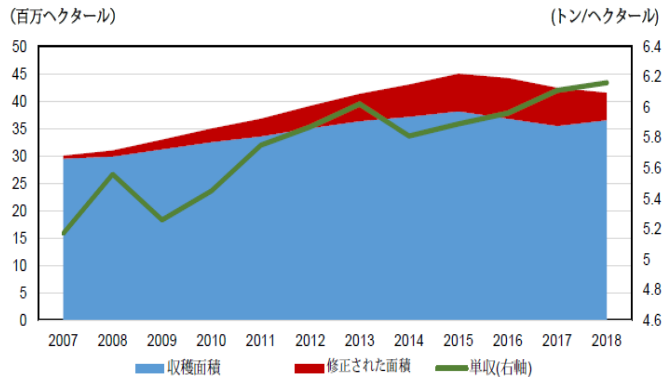
【生育・生産状況】天候に恵まれ、10月中にとうもろこしの収穫は、ほぼ終了している。国家統計局により、とうもろこしの統計データが大幅に見直された。収穫面積については、2007/08年から2017/18年の過去11年間のデータが見直され、上方修正された。それを踏まえた国家糧油情報センターの11月予測によると、収穫面積は、前年と比べ、0.23%減少の42.3百万ヘクタール、生産量は0.05%増加の259.2百万トンの予想である。

【需要状況】国家備蓄とうもろこしの競売により、市場供給が十分な状態が続いているため、国内価格は比較的安定している。

【貿易情報・その他】最新の中国税関統計によると、10月単月の輸入量は8万トンで前年より大幅に減少したものの、2018年1~9月とうもろこし累計輸入量は、299万トンで、前年同期比9%増となった。

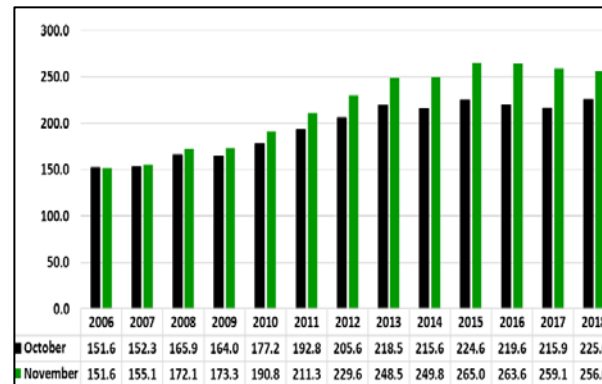
(参考) 国家統計局の見直しによる変化

中国の収穫面積の修正と単収の推移



資料：USDA, 「Feed outlook」2018.11.13

中国の生産量の推移(10月と11月)



■10月 ■11月

資料：USDA, 「World Agricultural production」2018.11.8

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

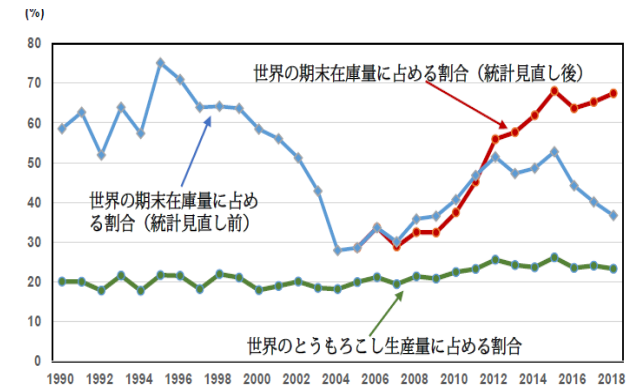
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	263.6	259.1	256.0 (219.9)	31.0	▲ 1.2
消費量	255.0	263.0	276.0 (247.6)	25.0	4.9
うち飼料用	185.0	187.0	194.0 (152.3)	20.0	3.7
輸出品	0.1	0.0	0.1 (0.1)	-	150.0
輸入量	2.5	3.5	5.0 (4.2)	-	44.1
期末在庫量	223.0	222.5	207.5 (165.1)	149.0	▲ 6.8
期末在庫率	87.4%	84.6%	75.2% (66.7%)	0.5	▲ 9.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.77	35.45	41.50 (35.70)	5.00	17.1
単収(t/ha)	5.97	6.09	6.17 (6.16)	0.01	1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(25 October 2018)

世界のとうもろこし生産量、在庫量に占める中国の割合



資料：USDA, 「Feed outlook」2018.11.13

### 3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

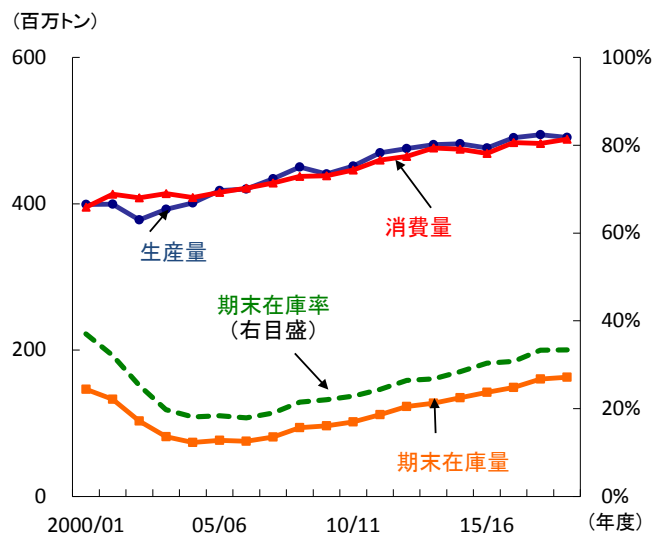
・前月に比べ、バングラデシュ等で消費量の下方修正により下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、インドでバングラデシュ向け輸出の下方修正により下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

※中国国家統計局データの見直し等により生産量、期末在庫量で上方修正



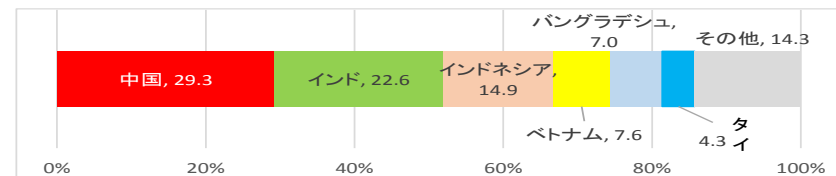
資料：USDA「PS&D」(2018.11.8)をもとに農林水産省にて作成

(単位:百万精米トン)

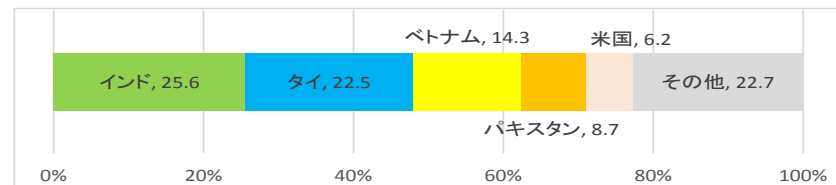
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	490.2	494.3	490.7	2.9	▲ 0.7
消費量	483.6	482.6	488.4	▲ 0.1	1.2
輸出量	47.3	47.8	48.9	▲ 0.6	2.3
輸入量	41.3	47.9	46.3	▲ 0.4	▲ 3.2
期末在庫量	149.0	160.7	163.0	17.8	1.4
期末在庫率	30.8%	33.3%	33.4%	3.7	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)

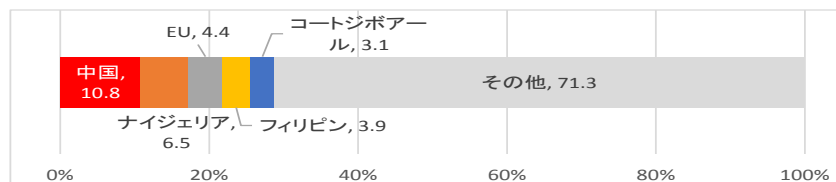
○ 2018/19 年度 世界の米の生産量 (490.7 百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸出量 (48.9 百万トン)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸入量 (46.3 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ沿いで栽培  
カリフォルニア州の全米に占める生産シェアは約2割

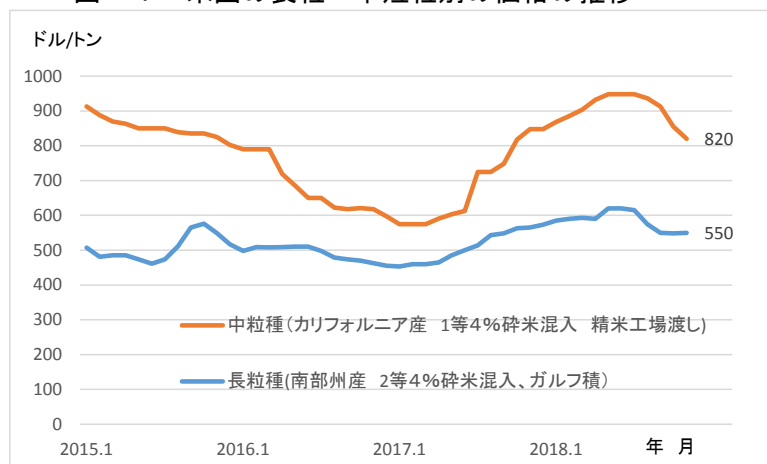
【生育・生産動向】収穫は終了した。米国農務省（USDA）によれば、前月と比べ、カリフォルニア州での単収がわずかに下方修正された結果、生産量で下方修正された(長粒：5.03 百万精米トン、中・短粒：1.90 百万精米トン 計 6.93 百万トン)ものの、前年度比では 22.4%増となった。

【貿易情報・その他】 輸出货量は、前月と比べ、長粒種に関し、南米の他の輸出国との競争の激化から下方修正された。

11月の精米価格は、ミシシッピ川流域の長粒種(2等4%碎米混入、ガルフ積み)が10月と比較して5ドルトン上昇し、550ドルトン。

一方、カリフォルニア産中粒種(1等4%碎米混入 精米工場渡し)は10月と比較し40ドルトン下落し、820ドルトン。

図－1 米国の長粒・中短粒別の価格の推移



資料：USDA 「Rice outlook (2018.11)」をもとに農林水産省にて作成

米－米国

(単位：百万精米トン)

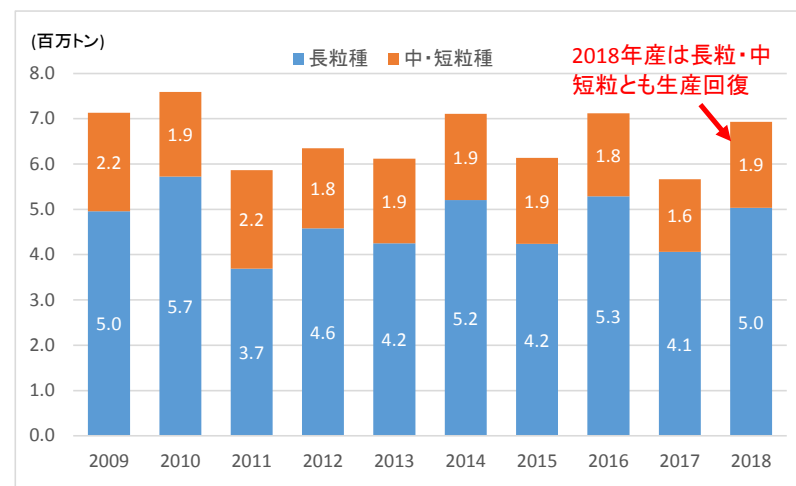
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	6.9	▲ 0.02	22.4
消費量	4.2	4.3	4.2	-	▲ 1.4
輸出货量	3.7	2.8	3.1	▲ 0.1	10.5
輸入量	0.8	0.9	0.9	0.03	4.7
期末在庫量	1.5	0.9	1.5	0.1	59.1
期末在庫率	18.5%	13.2%	20.4%	1.3	7.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.17	-	21.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.43	▲ 0.02	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)

図－2 米国の長粒・中短粒別の生産量の推移



資料：USDA 「Rice yearbook 2018」(2018.3), WASDE (2018.11)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > **夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】11月に入り、タイ中部では雨季作の収穫が終了し、乾季作を作付け。タイ北部と北東部では雨季米の収穫期を迎えている。

IGCによれば、米の生産過剰を防ぐため、タイ政府は、乾季作32万ヘクタールについて、低利融資と作物保険の充実によりとうもろこしへの転作を奨励。しかしながら、タイ東北部の県では、単年度では農家の対応が難しく、達成率は25%との報道。

【貿易情報・その他】タイ米輸出業者協会によれば、2018年1月～9月までの輸出量は8.12百万トンで前年同期比1.8%減少も、輸出額では6.5%増。香り米の新品種のHomMali米など高級品種の輸出割合が増加したことが要因。

USDAによれば、2017/18年度の輸出ペースが好調で上方修正されたため、2018/19年度の期末在庫が下方修正された。

< 中国 >

**北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度**

【生育・生産動向】USDAは、国家統計局のデータ更新に伴い生産量を過去に遡及して上方修正。収穫は、10月末で一期作稲が88%、晩期インディカ米が35%終了。11月で終了見込み。

【需要状況】USDAは、国家統計局データ更新に伴い、消費量、期末在庫量を上方修正。

【貿易情報・その他】物資備蓄局等によると、生産農家の所得保障等のための2018年産中晩期インディカ米の買上げ数量は11月5日時点で1,496万トン(前年比88万トン増)、ジャポニカ米の買上げ数量は596万トン(前年比13万トン減)。

1-9月の輸入量は224万トンで前年同期比24.9%減。主要輸入先はベトナム(シェア52.8%)、タイ(29.3%)、パキスタン(10.5%)。一方、1-9月の輸出量は138万トンで前年同期比55.1%増。主要輸出先は、コートジボアール(24.8%)、トルコ(9.9%)、韓国(9.1%)。

農業農村部の11月公表の「農産品供需形勢分析月報」(10月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれキログラム当たり3.78元、4.06元、4.08元で、市場への供給が充足していることから、前月及び前年同月と比較して下がっている。

米-タイ

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.2	20.4	21.2 (21.3)	-	4.1
消費量	12.0	11.2	10.2 (10.2)	-	▲ 8.7
輸出量	11.6	10.7	11.0 (11.2)	-	2.8
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	4.2	3.0	3.2 (3.4)	▲ 0.2	8.4
期末在庫率	18.0%	13.7%	15.3% (15.9%)	▲ 0.9	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	11.14 (11.20)	-	4.3
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.88 (1.90)	-	▲ 0.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(8 November 2018)

IGC「Grain Market Report (25 October 2018)」(単収は精米t/ha)

米-中国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	147.8	148.9	143.6 (141.8)	2.8	▲ 3.6
消費量	141.8	142.5	142.8 (146.0)	0.3	0.2
輸出量	0.8	1.4	1.8 (1.9)	-	29.5
輸入量	5.3	5.5	5.0 (5.0)	-	▲ 9.1
期末在庫量	98.5	109.0	113.0 (73.5)	17.0	3.7
期末在庫率	69.1%	75.8%	78.2% (49.7%)	11.6	2.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.75	30.06 (29.45)	0.56	▲ 2.2
単収(もみt/ha)	6.87	6.92	6.82 (4.81)	-	▲ 1.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(8 November 2018)

IGC「Grain Market Report (25 October 2018)」(単収は精米t/ha)

< インド >

**インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと一般的に呼ぶ。北部はカリフ・ラビの二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】

インド農業省の第一次作付予測(10月12日)によると、カリフ米の作付面積は、前年度(39.4百万ヘクタール)より減少の38.4百万ヘクタールの見込みは変わらず。

北部及び南部では収穫が終了。その他の地域では登熟期から収穫期を迎えている。

南部のタミルナード州ではラビ作の作付けが開始された。

【貿易情報・その他】輸出量については、USDAによれば、前月よりバングラデシュ向け輸出の減少から下方修正された。

米-インド

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	112.9	111.0 (113.5)	-	▲ 1.7
消費量	95.8	98.7	100.0 (100.6)	-	1.4
輸 出 量	11.8	12.2	12.5 (12.8)	▲ 0.5	2.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.6	21.1 (22.9)	1.1	▲ 6.6
期末在庫率	19.1%	20.4%	18.8% (20.2%)	1.1	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.99	43.79	44.00 (43.50)	-	0.5
単収(もみt/ha)	3.74	3.87	3.78 (2.61)	-	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)、  
IGC 「Grain Market Report (25 October 2018)」 (単収は精米t/ha)

< ベトナム >

**北部で二期作、南部で二期作、三期作。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】2017/18年度の夏秋作の作付面積は、前年度より2.5%減の205.5万ヘクタールと減少。そのうち、204.8万ヘクタールが収穫完了。生産量は前年度より5万トンの減の1,120万トン(粳ベース)の見込み。

秋冬作は75.2万ヘクタール作付けされた。秋冬作の前の夏秋作の作付け・収穫が遅れたことや洪水等の被害のため、秋冬作の作付けや収穫ができない地域が生じた。10月現在収穫中で、生産量は前年度より33万トン減の390万トンの見込み。

【貿易情報・その他】価格については、11月の国内卸売価格は横ばいである。10月の輸出価格は、インディカ精米(破砕米5%混入)が上昇。(9月:396→10月:404ドル/トン) ジャポニカ精米(破砕米5%混入)も上昇。(8月:520→10月:525ドル/トン ※9月データなし)

豪州の穀物貿易業者のサンライス社が、ベトナム産米の取引を増やすため、メコンデルタのドンタップ省にある精米工場の買収を行ったことを10月末に公表した。

米-ベトナム

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.5	29.1 (28.6)	-	2.1
消費量	22.0	21.8	22.1 (22.3)	-	1.4
輸 出 量	6.5	7.0	7.0 (6.9)	-	-
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.5)	-	-
期末在庫量	1.0	1.0	1.4 (2.0)	-	35.6
期末在庫率	3.4%	3.6%	4.8% (6.8%)	-	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.71	7.69	7.76 (7.73)	-	0.9
単収(もみt/ha)	5.68	5.92	5.99 (3.70)	-	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)、  
IGC 「Grain Market Report (25 October 2018)」 (単収は精米t/ha)

**(参考) ロシアの米生産（主に欧州南部のクラスノダルで中・短粒種を生産）**

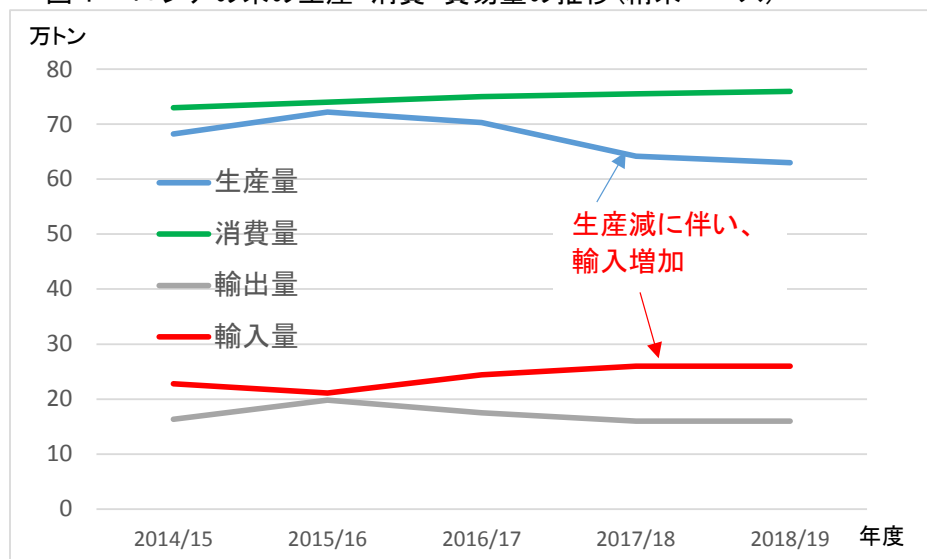
**<需給>**（図1参照）

- ・生産量は粳ベースで100万トン程度（精米ベースで60~70万トン）。主産地は欧州の黒海沿岸・南部連邦管区のクラスノダル地方で大半を占める。その他、極東連邦管区の沿海州地方（中国との国境沿い）等でも栽培。どの地域も主に中・短粒種を栽培。
- ・2018/19年度産の収穫は概ね終了した。ロシア農業省の本年11月15日付け報告によれば、品質調整前の粳ベースで110万トン。
- ・消費量は70万精米トン程度。粥やスープ、サラダ、パイ等の具材として用いられるほか、近年では寿司などの消費もある。
- ・生産量の減少に従って輸入量が増加。USDAによれば2015/16年度の21万精米トンから2018/19年度の24万精米トンまで増加見込み。

**<価格>**（図2参照）

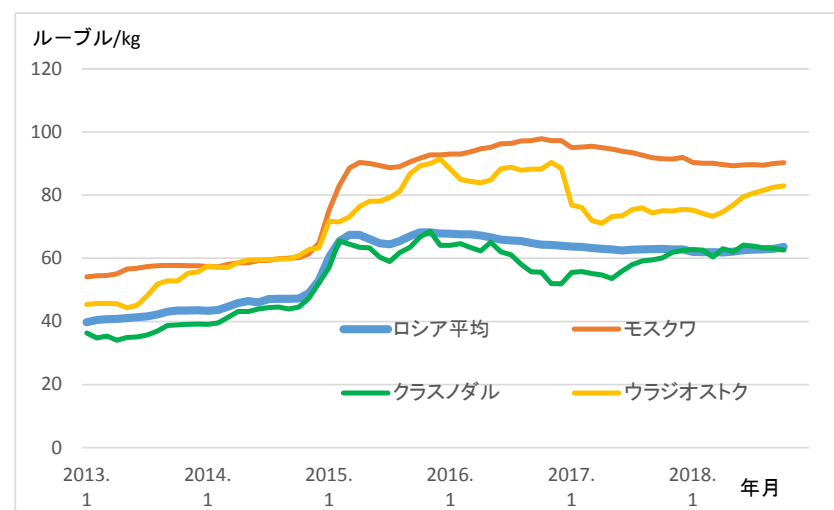
ロシアの米の小売価格については、最近3年間はおおよそロシア国内平均で60ルーブル/キログラム程度で推移。地域別に見ると、米の主産地のクラスノダルと比べてモスクワは高い傾向。（1ルーブル=1.7円；2018年10月現在）

図1 ロシアの米の生産・消費・貿易量の推移（精米ベース）



資料：USDA「PS&D」（2018.11.8）をもとに農林水産省にて作成

図2 ロシアの米の小売価格の推移



資料：ロシア連邦統計局資料（2018年10月）をもとに農林水産省にて作成

## II 油糧種子

### 1 大豆

(1)国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

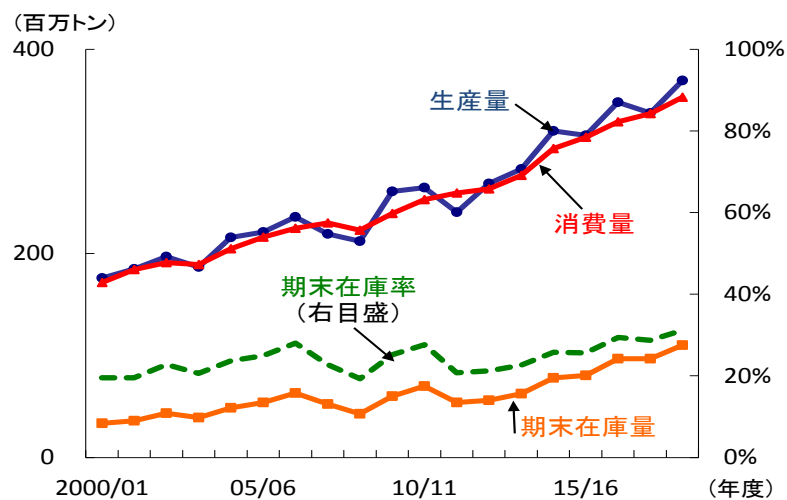
・前月に比べ、米国で収穫面積の減少のため、下方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、米国の輸出量減少により、下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2018.11.8）をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

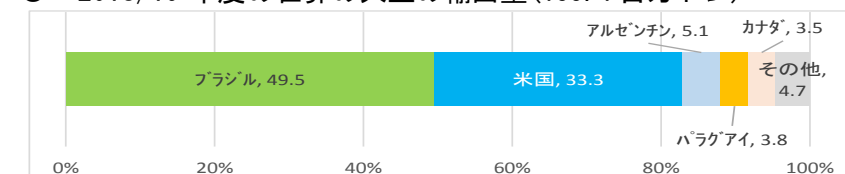
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	349.0	338.6	367.5	▲ 2.0	8.5
消費量	329.4	336.8	351.9	▲ 1.1	4.5
うち搾油用	287.2	294.9	307.6	▲ 0.6	4.3
輸出量	147.4	153.2	155.4	▲ 2.0	1.5
期末在庫量	97.4	99.7	112.1	2.0	12.4
期末在庫率	29.6%	29.6%	31.8%	0.7	2.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2018)

○ 2018/19 年度の世界の大豆の生産量(367.5 百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸出量(155.4 百万トン)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸入量(152.27 百万トン)

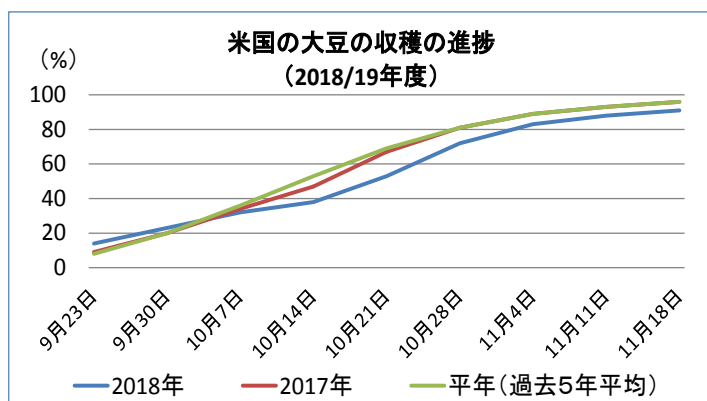


(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、11月18日時点の、大豆の収穫進捗率は、主要18州で91%である。収穫時期に降雨があり、過去5年平均の96%よりは、遅れている。生産量が前月より収穫面積の減少により、下方修正されたものの、125.2百万トンと史上最高の見込みである。

【貿易情報・その他】USDAによると、輸出量は、中国以外の国向けが伸びているものの、最大の輸入市場である中国向けに大幅に減少していることから、前月に比べ、下方修正されている。生産量は前月と比べ、下方修正されたものの、史上最高の生産量が見込まれる上、中国向け輸出量が減少したことから、期末在庫が大幅に増加する見込みである。



資料：USDA 「Crop progress」 (2018. 11. 19)

大豆－米国

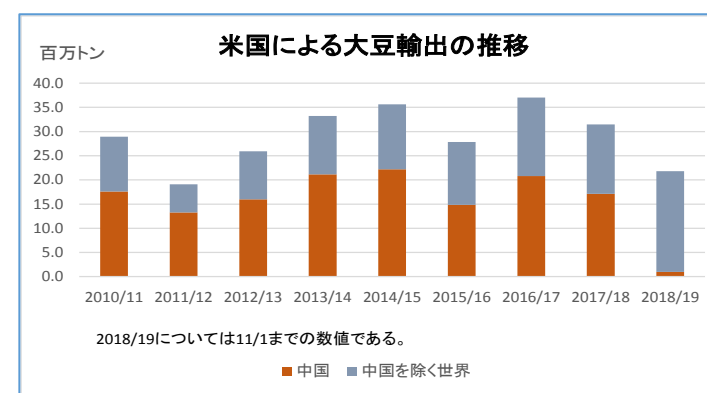
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	120.0	125.2	▲ 2.4	4.3
消費量	55.7	59.0	60.1	-	1.9
うち搾油用	51.7	55.9	56.6	0.3	1.2
輸出量	59.0	58.0	51.7	▲ 4.4	▲ 10.8
輸入量	0.6	0.6	0.7	-	15.3
期末在庫量	8.2	11.9	26.0	1.9	118.1
期末在庫率	7.2%	10.2%	23.3%	2.5%	13.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.47	36.23	35.75	▲ 0.21	▲ 1.3
単収(t/ha)	3.49	3.31	3.57	0.02	7.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (8 November 2018)



資料：USDA 「Oil Crops outlook」 (2018. 11. 13) , PSD



< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社(Conab)によると、10月には全国的に雨季に入っており、栽培に適した気候になっている。大豆栽培は、例年より早く始まっており、11月16日時点での作付進捗率は、80%で平年の69%を大きく上回っている。主産地のマトグロッソ州では、99%であり(平年90%)、既に大部分の作付けが終了している。

【需要動向】Conabによると国内消費量は、搾油用が40.5百万トン、食用が3百万トンと予測されている。Conabは前月より生産量を上方修正し、115.77百万トン～119.27百万トンと見通している。

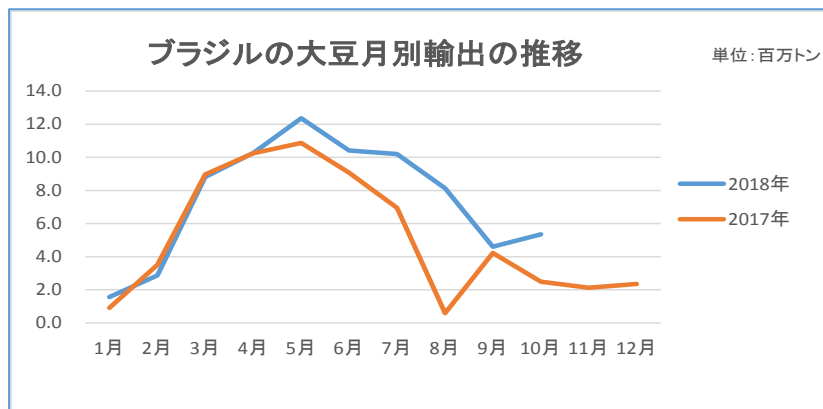
【貿易情報・その他】輸出量は、1月から10月までの累計で、前年の一年分の合計67.6百万トンを上回る74.6百万トンに達している。輸出先は、中国が大多数を占めており、アルゼンチン、ヨーロッパ、中近東諸国へも輸出されている。

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はOil.W	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	114.6	119.8	120.5 (120.0)	-	0.6	
消費量	43.7	47.0	46.0 (…)	▲ 0.2	▲ 2.2	
うち搾油用	40.4	44.6	42.7 (43.1)	-	▲ 4.3	
輸出量	63.1	76.2	77.0 (78.5)	2.0	1.1	
輸入量	0.3	0.2	0.2 (0.1)	▲ 0.2	11.1	
期末在庫量	26.8	23.6	21.3 (0.8)	▲ 1.6	▲ 9.8	
期末在庫率	25.1%	19.1%	17.3% (…)	▲ 1.6	▲ 1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	33.90	35.10	37.50 (36.50)	-	6.8	
単収(t/ha)	3.38	3.41	3.21 (3.34)	-	▲ 5.9	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(16 November 2018)



出典: ブラジル商工サービス省 (Ministério da Indústria, Comércio Exterior e Serviços)

ブラジルのクロップカレンダー (2018/19年度) (中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデスル州等 作付 5.11~5.26 (百万ha)												収穫 26.81~27.22 (百万t)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 16.66~16.81												作付 11.55								
大豆	マトグロッソ州、パラナ州等 作付 35.36~36.13												早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種 収穫 63.73								
													収穫夏冬計 90.02~90.95								

資料: CONAB 2018年11月

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) による予測は、前月と変わらず、2018/19年の収穫面積は、2017/18年より減少しているものの、単収は、2.96 トン/ヘクタールと伸びている。生産量は、米国農務省 (USDA)、AAFC とともに前年と比べて 0.2 百万トン減少の 7.5 百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】AAFC は、11 月 15 日のレポートにおいて、今後の大豆動向について見る際に、以下の 4 点に注意すべきとしている。

- ①カナダや米国における、降雨による収穫遅れの可能性。
- ②米中の通商関係。
- ③南米における大豆栽培の開始時期や規模。ブラジルは栽培面積を拡大し、作付け時期も早いことから 2019 年 1 月には輸出が開始できると見込まれている。
- ④為替の変動。カナダドルは米国ドルに対して安く、輸出競争力を持っている。

参考 カナダのなたね

オイルワールド誌によると、主産地では 10 月に長雨により遅れていた収穫が、11 月前半には天候回復により、順調に進んだ。AAFC によると、前月と予測は変わらず、生産量は 21 百万トンで、過去 5 年平均の 18.9 百万トンを上回るものの、前年の 21.3 百万トンは下回る見込み。輸出量は、有利な為替レートに支えられ、前年度より 5%増加の 11.5 百万トンの見込み。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】ブエノスアイレス穀物取引所によると、2018/19 年度の大豆栽培面積は、17.9 百万ヘクタールであり、前年から約 20 万ヘクタール増加する見込みである。11 月 15 日時点で、21.7%作付けが進んでいる。平年の 23.4%と比べると遅れているが、これは、発表の前週の降雨により、作付けが進捗しなかったためである。

【貿易情報・その他】2017/18 年度は干ばつにより減産となったことから、前年と比べて、2018 年のアルゼンチンからの大豆輸出量は少なく、逆に輸入量は増加している。主な輸出先は、ウルグアイ、チリであり、輸入先はパラグアイである。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	7.7	7.5 (7.5)	-	▲ 2.8
消費量	2.5	2.9	2.6 (2.4)	-	▲ 10.2
うち搾油用	1.9	1.9	2.0 (…)	-	3.3
輸出量	4.6	4.9	5.5 (5.7)	-	11.7
輸入量	0.5	0.5	0.6 (0.4)	-	19.1
期末在庫量	0.3	0.6	0.6 (0.5)	-	▲ 7.1
期末在庫率	3.9%	8.1%	7.2% (5.6%)	-	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.94	2.55 (2.54)	-	▲ 13.3
単収(t/ha)	2.96	2.63	2.94 (2.96)	0.19	11.8

資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、 「PS&D」 (8 November 2018)  
AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (15 November 2018)

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.0	37.8	55.5 (51.0)	▲ 1.5	46.8
消費量	47.8	41.7	47.9 (…)	-	15.0
うち搾油用	43.3	37.0	43.0 (39.0)	-	16.3
輸出量	7.0	2.1	8.0 (13.0)	-	279.1
輸入量	1.7	4.8	4.2 (5.8)	2.0	▲ 11.9
期末在庫量	35.5	34.2	38.0 (5.0)	1.8	11.0
期末在庫率	64.6%	78.2%	68.0% (…)	0.03	▲ 10.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.34	16.30	19.00 (17.30)	-	16.6
単収(t/ha)	3.17	2.32	3.00 (2.95)	-	29.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」 (8 November 2018)  
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」 (16, November 2018)

< 中国 >

【生産・生育状況】中国気象台によると、10月は、主産地の気象条件が良好であり、10月末までに、全国の大豆の収穫は終了した。米国農務省（USDA）によると、生産量は、収穫面積の増加により、前月より上方修正され、16百万トンの見込み。

【需要状況】オイルワールド誌によると、中国の搾油需要は減少しており、国内での搾油から植物油の輸入へと切り替えている。

【貿易情報・その他】報道によると、中国税関が11月23日に発表した10月分の通関統計では、輸入量は6.92百万トン。1から10月の累計は76.5百万トンで、前年同期(77.3百万トン)を下回っている。また、農業農村部が11月に公表した「農産品供需形勢分析月報」（10月分）によると、1から9月の大豆輸入量の約7割がブラジルからの輸入であるという。

大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.6	15.2	16.0 (14.8)	▲ 1.0	5.3
消費量	103.5	106.3	109.6 (…)	▲ 1.0	3.1
うち搾油用	88.0	90.0	92.5 (86.5)	▲ 1.0	2.8
輸 出 量	0.11	0.15	0.10 (…)	-	▲ 33.3
輸 入 量	93.5	94.1	90.0 (93.0)	▲ 4.0	▲ 4.4
期末在庫量	20.7	23.5	19.8 (…)	▲ 0.9	▲ 15.7
期末在庫率	19.9%	22.1%	18.1% (…)	▲ 0.7	▲ 4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.60	8.25	8.40 (7.10)	-	1.8
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.00)	-	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(8 November 2018)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(16 November 2018)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2018/19年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆	なたね
米国	18年6月～19年5月	18年9月～19年8月	18年8月～19年7月	18年9月～19年8月	
カナダ	18年8月～19年7月			18年8月～19年7月	18年8月～19年7月
豪州	18年10月～19年9月				
EU	18年7月～19年6月				
中国	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	
ロシア	18年7月～19年6月		19年1月～12月		
ブラジル		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
アルゼンチン		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
タイ			19年1月～12月		
インド			18年10月～19年9月		
ベトナム			19年1月～12月		
ウクライナ		18年10月～19年9月			

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2018/19年度は、米国の小麦では2018年6月～2019年5月、ブラジルのとうもろこしでは2019年3月～2020年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

## 【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC 等) の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2018 年 11 月下旬までに 発表した情報を引用しています。**さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

### 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1487>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1490>

「World Agricultural Production」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1860>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場 (平成 30 年 5 月中において適用される) 等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

○ 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。

○ 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート（Monthly Report）」）を併記願います。

○ 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

○ 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

○ 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<b>連絡先</b>	<b>農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室</b>
	<b>TEL：03-3502-8111 (内線 3805)</b>
	<b>FAX：03-6744-2396</b>